

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第186号

[2023年2月28日発]

35年永年勤続

栄養科主査 長谷部 茂美

この度は永年勤続35年の表彰をいただき、ありがとうございました。
わたしは1987年東病院の創設と退職者の補充として、12名の栄養士のうちの1人として、採用されました。

当時は仕込み、盛り付け、配膳業務以外は、全て直営職員が業務しており、1~2カ月単位で多種の業務を修得し、事務業務はパソコンがなく手書き、電卓計算で大変だったのを覚えています。また調理業務が苦手だった私を先輩や同僚が丁寧にご指導、ご協力して頂き本当に感謝しています。

その後、パソコンが導入され、臨床業務（栄養指導、栄養管理計画書作成など）以外の給食業務は業務委託になり、勤務体制も大きく変化しました。

東病院、歯科病院、藤が丘リハビリテーション病院勤務を経て、烏山病院には平成22年度以来2度目の勤務となります。

今後も各部署のスタッフと委託業者と連携を図りながら患者様に安全で満足して頂ける食事を継続して提供していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



防災訓練

A4 病棟 看護師 西舘 千栄

災害は前触れもなく突然やってきます。今日もしくは明日くるかもしれません。地震・火災・豪雨、もしくは戦争やテロ…どんな状況にも対応できるように、今は備えておくしかありません。

2023年2月9日木曜日、鳥山病院では病院全体で参加する防災訓練を行いました。目的は「緊急時、災害発生から災害対策本部設置、報告ルートの一連の流れを確認する」とし、災害想定は震度6強の大地震発生としました。医療施設は特定防火対象物ですので、年に2回（+夜間1回）



の防災訓練が義務付けられています。この2年間はコロナ禍のため、病院全体での防災訓練ができず各部署でしか行われていませんでした。今回やっと病院全体での防災訓練が行えるようになりました。

地震発生の放送を合図に各部署での防災訓練は開始されました。まずは「身の安全を図れ！」の第一声で緊張感が走ります。病棟では地震の揺れが収まったとして患者さんの安否確認に向かいました。その際には建物の損壊確認も行います。各部署の責任者は報告書をもってあらかじめ設定していたルートを辿り、迅速に災害対策本部に急ぎます。事前に念入りな準備をしていたことも幸いし、災害対策本部はスムーズに立ち上がっています。今回はここで防災訓練は終了しました。防災訓練は実施することは重要な第一条件ですが、訓練終了後の振り返り、課題の捻出・対策について話し合うことが最も大切なことです。今回の防災訓練でも課題はいくつも明確になりました。まずは防災訓練を定期的に行っていき、どんな状況にも対処できるよう効果ある防災訓練を行っていきたいと思います。

大災害が起こると建物の倒壊や火災、建具の転倒や落下、大規模な停電・通電火災など様々な被害が発生します。これらの被害は想定できるものであり「やっておけばよかった」では遅いのです。後悔のないように、いまは「備えの時」です。職場やご自宅でもしっかり備えておくことが求められます。

日々の忙しい業務に追われ、防災訓練はどうしても優先順位が低くなってしまっているのが現状です。東日本大震災から12年が経ちました。尊い命がたくさん失われました。その中でも「釜石の奇跡」があったのは日頃の防災訓練があったからそのものです。実際に災害が起こったらという気持ちを念頭に、「継続は力なり！」今後も防災訓練を定期的に行っていきたいと思います。



“会いに行っちゃう精神科”「架け橋プロジェクト」始動！！

精神保健福祉士 水野 有紀

おなか痛くなって何度も病院に来る方、歩けなくなって救急車で運ばれてくる方・・・体調不良で総合病院にやってくる患者さんの中には精神科で治療を受けたほうが良い方が一定割合いらっしゃいます。でも内科の医師が精神科受診を勧め、診療情報提供書を作成しても結局、精神科の外来には来てもらえないことが多いです。なぜなら精神科は怖いところだと思われているからです。鉄格子がはまっていて、大声で叫んでいる人がいて、医者も看護師も怖くて、一回入ったら出られない（最近では残念な暴力事件もありましたし）。あとは、精神科にかかることは恥ずかしいこと、負け組の刻印を押されることだという思いもあるかもしれません。もちろん私はそんなことは思っていないですし、「あおぞら」を読んでもらっている方はお分かりと思いますが、実際の精神科はそんなところではないですよ？そうです、誤解されているんです。なので、私たちはこちらから押しかけることにしました。少し前に“会いに行けるアイドル”というのがありました。が、“会いに行っちゃう精神科”、その名も「ハロープロジェクト」ならぬ「架け橋プロジェクト」です。

昨年6月から月1回、烏山病院の医療チームが練馬光が丘病院に出向いて患者さんにお会いしています。現在は常岡医師、石原医師、塚越看護師、菅野看護師、木下看護師、安藤薬剤師、PSW 水野がその都度チームを組んで、オープンダイアログ・スタイルで患者さんと話しています。患者さんの困りごとをみんなで聞いて、患者さんの目の前で医療者がカンファレンス（来てくれたらこんなことできるね！こんな気持ちでいるんじゃないかな？力になりたいな！など意見を出し合う）をして、最後に患者さんに今後の方向性（入院する、外来に通う、もう少し考えてみるなど）を決定してもらいます。オープンダイアログはフィンランド西ラップランド地方で開発された包括的アプローチで7つの原則があります。我々は原則には則っていないので、オープンダイアログの面接スタイルを使っているという感じです。

患者さんが通いなれた内科の外来で、私たちは私服で完全にアウェイです。普段、専門職と患者という関係が、どうしても力関係になってしまうことを窮屈に感じていたので、白衣を脱いだ状態から関係をスタートできることに喜びを感じています。練馬光が丘病院からたくさんの仲間が入院、外来に繋がっています。より快適な生活のために、また人生設計の1つのパーツとして、精神科の医療を、もっともっと多くの方に上手に使ってもらいたいと思っています。



デイケア活動 フライデージム

Mさん

昼プロ(昼のプログラム)を紹介します。第2弾。金曜お昼に昼プロのフライデージムが登場しました。フライデージムでは、棒体操とハンドクラブを行います。棒体操というのは、椅子に座って新聞紙を丸めた棒を使ってする体操です。棒を投げている間に拍手や足踏みをしたり、棒を回転させて投げたり、やってみるとなかなか難しいです。ハンドクラブは、動画に合わせて拍手を入れながら踊ります。0.75倍速でゆっくり踊るのですが、すぐにゼゼゼしてしまい、体力の無さを感じま



す。プログラムが終わると、参加した人は1枚ずつシールをもらって、壁に貼ってある大きい路線図の駅に一枚ずつ貼っていきます。これには理由があって、達成感を味わうため、楽しみながら続けるため、路線図を進むように前進している感じを得るため、このような工夫がされているのです。烏山病院のある千歳烏山から始まり、京王線、小田急線の停車駅は全制覇しました。次はどこまで辿り着けるか楽しみです。

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《1月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,439(8,391) 5,667(5,892)

◇一日平均患者数 272.2(270.7) 246.4(245.5)

◆診療実日数 31(31) 23(24)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

こちら当院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。

あおぞらについてのアンケートを作成しましたのでご協力の程よろしくお願いたします。



【編集後記】

東京は1年で最も寒い時期を迎えています。また、湿度も最も低いため、乾燥による皮膚トラブルやパチパチと嫌な静電気にも悩まされているのではないのでしょうか。保湿剤が欠かせませんね。

先日の節分では、皆さん豆まき等しましたか？

旧暦の立春が新年であったため、今の大晦日のような日であったと言われております。皆様の今年1年の無病息災を祈っております。



(広報委員 亀井)